

花ノ木

第 105 号

令和元年11月24日

花ノ木医療
福祉センター

電話 0771-23-0701

FAX 0771-22-8348

日中活動の様子

第一病棟

厳しい暑さも9月の中頃からやっと収まり出し、利用者さんも屋外での活動がしやすくなりました。中庭のテラスデッキの利用も始まり、集団活動では、白いテーブルに飲み物を並べてコーヒータムを楽しみました。中庭を吹き抜ける風も気持ちよく、風のないう日差しのある日はパラソルで日陰を作り、シャボン玉を飛ばし、芝生の上を歩いたり、座ってくつろいだり、少しの時間でしたが、室内よりゆったりと過ごせたように思えます。



「所内デイ」の園芸は中庭でプランターに、じゃがいもとチューリップを植えました。水やりは排水溝の上にプランターを置き、コンクリートが汚れ

ないように工夫して行いました。植え付けの後は、持参したコーヒーや紅茶で一服です。やはり、仕事の後の一杯は格別ですよね。

屋外で活動できる季節は限られています。天気の良い日の活動はどんどんきたいと考えています。

秋のコンサートでは「あきそらコンサート」と題して、中庭コンサートを計画していましたが、生憎の天候で室内での開催となりました。

病棟の皆さんが、中庭や2階のペランダで、秋空の下、太陽の光を浴びて、音楽を楽しむことができました。どんなに素敵な時間になるでしょう。

巨大なてるてる坊主を作って天気を祈らなくては・・・

(生活支援員 井関るみ子)

第二病棟

第二病棟では、外部エンタランスにて園芸活動を実施していますが、その中で今年度はバケツでの稲作に取り組みました。まずは6月上旬にバケツに田植えです。在宅時代に家業の手伝い

や、昔の活動で経験のある利用者さんは器用な手捌きで苗を分け植えていけます。順調に育っていき「大きくなってきた」「沢山取れる！」と



見に行く度に楽しみにされていました。夏の猛暑に負けず無事に収穫し緑色の稲穂が黄金色になりました。稲刈りです。職員と一緒に稲刈り鎌で刈り取り作業をし、しばらく乾燥させます。

一連の作業も懐かしいのか笑顔が多く見られていました。次の工程は脱穀です。「扱き箸(こきばし)」という昔ながらの道具を使つての脱穀作業では稲穂が落ちる音が心地よく響いていました。白摺り(うすすり)で玄米に仕上げた後、最終工程は精米です。



一升瓶や牛乳瓶に玄米を入れて棒で突きます。「ザクザク」と米が擦れていきます。最後に文明の利器である精米機で仕上げ

て完成！給食係に調理を依頼予定です。

昔を懐かしむ利用者さんの姿も見られ、泥の感触や藁の香りなど季節を感じられるよい機会となりました。

来年は「もち米を作り、餅つきをする」と意気込んでおられる利用者さんがおられます!!

(生活支援員 片山将宏)

第三病棟

第三病棟の外出活動の行き先希望(ニーズ)に、毎年「バーベキューを楽しむ」というのが挙がります。私が第三病棟へ異動して、外出活動の中で「バーベキューに行けるって、すごい！」と一番驚きました。

バーベキューは楽しいけれど、準備し、食材を焼き、後片付け、と時間も手順も大変なイメージはないでしょうか?でも今は、現地での設備も整つていて、外出活動でも気軽に利用することができます。今年8月に山田池公園(枚方市)、10月に日吉フォレストリゾート山の家で、4名の入所者さんとご家族がバーベキューを楽しみました。山田池公園は初めて行く場所でしたが、わかりやすい行程でという入所者さんの特性も踏まえ、往復の時間と現地での食事時間(滞在時間)を検討し決定しました。日吉山の家は、静かでゆつたりとした環境でということでは最適の場所でした。どちらも現地に着るとすぐに焼き始められ、入所者さんもお家族も職員も、ワクワク!目の前で焼いた食材を、すぐに食べられるというの、バーベキューな



らではの楽しみです。
使う火や網に触らないか、食材の焼き加減、大きさなど安全面での配慮は十分必要ですが、「バーベキューに行く」ことを楽しめる外出活動を、今後も続けていけたらと思います。

(生活支援員 伊崎藤子)

第五病棟

夏場は暑さが厳しく、なかなか散歩などの機会が得られません。どうしても室内での活動が増えてしまいます。

そんな中でも、せめて季節感を感じていただきたいと思い、第五病棟では魚釣りゲームや虫取りゲーム、ボールプール等の活動を行いました。また、七夕の飾り付けをしたり、お誕生日会では誕生日を迎えた方に浴衣を着てもらったり、皆で花火大会の様子をビデオシアターで鑑賞したりと夏を感じる取組みを中心に行ってきました。7月の末には、病棟の行事としてサマーコンサートも開催しました。家族の方と一緒に童謡や歌謡曲などをゆったりと聴いて楽しむ事が出来ました。



夏も終わり、9月半ばになってから、ようやく秋らしく少しずつ涼しくなってきました。外に出る機会も増えて、センター周辺を散歩する事も多くなり

ました。9月22日からは中庭のオーブンテラスの使用が始まり、散歩の合間や活動などで秋風に吹かれながら心地よく過ごす事が出来るようになりました。また、他病棟と合同で取り組んでいる園芸活動でも収穫の季節を迎え、稲刈りや唐辛子等の野菜の収穫を楽しみました。

(生活支援員 大西智史)

はなのき通所

はなのき通所では火・水・木曜日を中心にレクリエーション活動を実施しています。利用者さんの多くは、腕を少ししか動かさず、その方達がどんなゲームだったか楽しめるのかを日々探りながら活動をしています。また、視覚的にも対象物が倒れたり落ちたりして、ゲームの勝敗などが分かりやすいようなゲームにしています。

通所係の夏まつりでは射的をしました。射的といってもストラックアウトのようなもので、大きなパネルに1〜9の数字をつけた的を、「吸盤付きのダーツ」のような物で落とす、その落とした数字の合計点を競い合うものです。1回で沢山落ちる事もあれば、思った通りにいかないのがまたゲームを楽しくしています。



もう1つのゲームは紙相撲です。子供のときに土俵に見立てた円に紙のお相撲さん

を作って対戦したのを覚えていませんか？通所係では振動する機械とビッグスイッチを使って利用者さんに合わせた紙相撲のゲームを作りました。ビッグスイッチはサームソンの利用者さんにはお馴染みのアイテムです。これを使う事で、手でトントンし振動を起こしていた動きの代わりができるようになりました。まだ活動は試作中で、マイお相撲さんも製作中です。



今後は病棟とも活動などを通じて交流できる機会が増えるといいなと思います。

(生活支援員 青山博章)

児童発達支援センター

今回は、「おひさま」金曜さくらんぼクラスの運動会ごっここの活動を紹介したいと思います。

この活動では、繰り返して行うことで、知っている事、分かる事を増やしていく、また、設定された中で、自分の順番を待つことができることを目標として、4回継続して取り組みました。

最終回の10月4日の活動では、玉入れとかけっこを行いました。

「ばいきんまんをやっつけよう」の玉入れでは、両手に玉を持ち、ばいきんまんを狙って丁寧に投げ入れます。最後の玉までやり遂げることができました。玉が入ると、「できたよ」と言ってお母さんを振り返り、拍手してもらえるのを待つ姿もみられました。

「かけっこ」では、名前を呼ばれて、スタートラインに並んで立つことができ、「よーいどん」の合図でお母さんに向かって走り出す子どもや、他の子が走り出すのを見て、スタートする子どももいました。

さくらんぼクラスでは、親子で取り組む中で、子どもさんの興味、関心を知り、環境を整えることで、目の前のものにしつかりと注目して、促せる力を育てることを大事に保護者の方に伝達、共感しながら、活動しています。今後も様々な活動に取り組み、子どもたちの成長を保護者の方と共に見守ってまいります。

(生活支援員 福田有加)



***これまでの経歴を教えてください。**

大学卒業後、京都府に入庁しました。最初の仕事が、昭和63年の京都国体で、二順目の初回大会ということで、その準備に関わりました。広報も担当していましたので、マスコットの「未来くん」のぬいぐるみを作ったり、その着ぐるみの中に入ってお披露目したりもしました。その後は、だいたい総務とか管理ですね。振り返れば、健康福祉の部署が多かったと思います。乙訓保健所を最後に今年3月に退職し、4月からこちらにお世話になることになりました。行政ですので色々な仕事をさせてもらい、楽しいこともいっぱいありましたし、厳しいこともあったというところです。

***花ノ木の印象を教えてくださいいただけますか。**

「どういうところかはよくご存知だったと思います。」

そうですね、「花ノ木」は知っていましたが、あくまで京都府というか、行政の立場からしか見ていなかったのですが、実際に入ってみて、本当にみんな真面目に明るく、一生懸命頑張っているという印象は持っていますね。

***法人に入られてみて、いかがでしょうか。**

もちろん従前からきちんと仕事はされていますが、新しい目で見てもまずは1年回ってからのと思いますが、整理していくべきところもあるのかなという思いはあります。法人の事務局長としての仕事は、法人全体の総括、色々な課題が出てきますので、その対応とかですね。特に今年、事務部と法人事務局が分かれてから1年目ですので、そこらへんの整理を。分かれたから事務局と法人事務局は違うよと言うのではなく、一緒にできるところはもちろん一緒に、区分

シリーズ「この人にきく」

法人事務局長 貴志 彰 さん

今回は、4月から法人事務局次長・7月から事務局長として勤務されている貴志 彰さんにお話を伺いました。



をつけるところは、きちっとつけてやっていけたらなと思っています。センターは基本的に現場の仕事がありますし、その統括は事務局できっちりやっていたらいいです。法人事務局は、センターも含めた組織全体の調整であったり、社会福祉法人として理事会・評議員会との関係も含め、全体のことが

取りについては、理事長、常務理事が先頭に立っていただいているので、職員の皆さんに助けていただきながら、そこにちよつとでも役立てたらと言う優等生的な発言を言っておきます。(笑)

花ノ木は府としても中核施設という位置づけがありますんで、そういった意味では、

仕事ですね。私はどちらかと言うと調整型の人間なので、まずは人の意見を聞く中で決めていきたい。法人事務局として総論的な見方というか、全体的に見て、法人としてどう進むのか、そこらへんをやっているのかなあかんのかなと思っています。一刻一刻と社会情勢が変わる中で、今後の法人の難しい舵

職員さんもそれぞれ、私たちは京都府の障害児者施策を担っているというところは誇っていたらいいのかなと思いますね。

***趣味などは?**

実は、高校大学までずっと体育会でテニスやっていました(今から15kgほどスリムな

頃)。社会人になつたぐらいの時はね、京都でもランキング5位に入つたり、近畿府県庁職員大会では毎回優勝したりはしたんですけど…。ちよつとこれは書いてほしいんですが、今は全然です。先日何年かぶりにちよつとやったんですけど全然ダメでした。あまりにひどいので、もうしたくないな、と思うぐらいです。最近は何に興味を増やしたいなと思つてまして、映画や観劇、コンサートや旅行なんかに行つてます。ドラマも録画して観ますね。

***映画はどんなものをご覧になりましたか?**

映画は邦画から洋画まで、ジャンルに囚われることなく、アニメの「天気の子」や「君の名は」等まで観ています。昔々からスターウォーズなんかも観てました。

***ご旅行は家族で行かれるんですか**

基本は家族というか、家族ばかりかなかな。もうちよつと独り立ちをせんとかなと思つたりします。せつかく亀岡に来たので(お住まいは向日市)、一応こちのラーメン店は制覇したと思つているので、今後は「湯の花温泉」日帰り入浴めぐりや、この近辺色々歩いたりもできたらいいなと思つてますね。いい情報があつたらぜひ教えてください。

***インタビューを終えて**

お忙しい中、大変気さくにインタビューに応じていただきました。先日の所内研修でもドラマの話を引き合いに出しておられたり、普段の趣味の開拓が役立っておられるようです。亀岡近辺の方、おいしいお店、観光情報等募集中です。

(聞き手・高橋編集委員
柳原編集委員)

掲示板

中庭リニューアル オープンイベント

9月20日(日)の面会日に、「中庭リニューアル記念イベントカフェ&コンサート」を行いました。

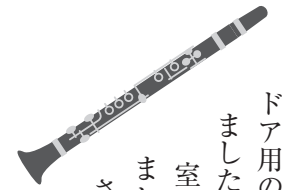
この夏、中庭を利用者さんやご家族が過ごせる憩いの場として、また、日中活動や交流の場として、ウッドデッキや大きなパラソルを設置し、芝生がきれいな庭へと改修しました。改修工事の様子は、花ノ木ホームページブログにてその様子を綴っていますので、是非ご覧ください。

さて、イベント内容は第三病棟が面会日に行う「面会日カフェ」とコンサートとの合同開催となりました。面会日カフェは月一回利用者さんやご家族、職員が参加し、カフェをしながら雑談するという企画です。コンサートは、亀岡市吹奏楽団にクラリネット演奏をお願いしました。

本番当日は、生憎の空模様。残念ながら室内での開催となりました。リニューアルした中庭の写真をプロジェクトで写し、中庭にいるような気分?の中、クラリネットの演奏を聴くことができました。すてきな演奏をありがとうございました。カフェでは室内にアウト



ドア用のタープを張り、中庭気分を盛り上げました。



室内でのイベント開催となりましたが、久しぶりに全病棟の入所者さんが集う楽しい機会となりました。これから中庭の利用がとでも楽しみです。

(看護生活支援部 生活支援課長 内田和彦)

花ノ木の動き

(令和元年七月十六日〜令和元年十月三十一日)

- 7/22 医師会看護専門学校 看護実習(〜26)
- 8/2 南丹看護専門学校 精神科実習
- 7 花園大学児童福祉学科実習(〜10)
- 7 所内研修「前期医療安全」
- 26 はなのき通所「つどい」
- 30 はなのき通所「夏祭り」
- 9/5 所内研修「個人情報保護・苦情対応」
- 9 医師会看護専門学校 看護実習(〜10/4)
- 11 総合防災訓練
- 14 京都医療福祉専門学校実習(〜27)
- 18 情報発信事業「ボランティア講座」
- 20 健寿のつどい
- 10/20 児童発達支援センター「防災訓練 新規採用職員研修「事業所見学」
- 10/20 医師会看護専門学校 看護実習
- 2 所内研修「働き方改革」
- 7 明治国際医療大学 看護実習
- 9 職制研修「中間決算報告」
- 11 第41回亀岡自衛消防消火訓練大会
- 16 所内研修「理事長講話」

- 23 京都先端科学大学 看護実習
- 24 京都先端科学大学 看護実習
- 24 理事会
- 27 花ノ木ふれあいまつり
- 28 献血

ありがとうございました 寄附・寄贈 (敬称略)

- ◎寄附 永田マス子/上西一郎
- ◎寄贈 米倉 優(絵本)

編集後記

先日、金沢21世紀美術館で開催されていたムーミン展へ行ってきました。ムーミンといえば、子供の頃から慣れ親しんだキャラクターであったし、何よりあの白くて丸い、愛らしいフォルムが好きだ。ムーミンの作者は、フィンランド出身のトーベ・ヤンソン。そのキャリアは実に長く、15歳から86歳までの71年間、トーベは絵を描き続けた。

トーベのエピソードの中で印象に残っているものがひとつある。トーベは、都会の喧騒から離れた島に小屋を持っていた。鍵はいつも目に見える場所にかかけられ、どなたでもご自由にどうぞ、という旨のメッセージが書かれていた。トーベがいない間も、航海中の嵐から身を守りたい人や、温かいコーヒーを飲みたくなった人がその小屋で過ごした。トーベの心は、人々を迎え入れる小屋のように、常に開け放たれていた。その心の在り方に憧れ、私もそんな風に扉を開いておける人でありたいと思った。

(飯田真菜編集委員)